

1.1.1 永久コドラート調査

(1) 調査結果概要

永久コドラート調査は、各重点監視海域内、代表評価地点で、かつ生息場環境がサンゴ場の地点で実施した。加えて、重点監視海域調査地点の内、定点観測調査において過年度からコドラート枠調査が実施されている地点については代表評価地点でないものについても掲載した(016-2,016-3,043-1)。

さらに、重要サンゴ群集等地点、対照地点(サンゴ場)においても実施した。調査結果の概要を表 4.3-60 に示した。

表 4.3-60 調査結果概要(永久コドラート調査)

	大井川(今堀仁村)河口	大小堀川河口	平良川河口	平良川河口	平良川河口	慶佐次川河口	湊那中港川河口
	018-1	022-2	016-1	016-2(No.2)	016-3(No.3)	015-1	043-1(No.1)
サンゴ類の総被度	1%未満	20%	5%未満	6%	1%	10%	8%
死サンゴ類の総被度	-	-	-	1%未満	1%未満	-	1%未満
種類数	1	18	7	20	4	18	3
群体系数	1	43	18	63	6	38	9
ミドリイシ類の最大長径×短径	-	23×22(cm)	16×14(cm)	-	-	25×20(cm)	-
オニヒトデ個体数	0	1	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0	0
主な出現種	キクメイシモドキ(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	フタゲキクメイシ(塊状)	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)	ハマサンゴ属(塊状)	ハマサンゴ属(塊状)	カメノキクメイシ(塊状)
					カメノキクメイシ属(塊状)	カンボクアササンゴモドキ(被覆状)	
					トゲキクメイシ属(塊状)		
					コモサンゴ属(被覆状)		

	湊那中港川河口	大度海岸	真謝川河口	備間川河口	白保海域	宮良川河口	与那良川河口
	043-3	066-OD38	071-1	073-35	095-S07	094-2(No.2)	099-1
サンゴ類の総被度	50%	30%	15%	20%	5%	14%	85%
死サンゴ類の総被度	-	-	-	-	-	1%未満	-
種類数	2	14	6	30	6	12	9
群体系数	4	21	9	67	9	33	12
ミドリイシ類の最大長径×短径	-	9×6(cm)	19×16(cm)	40×38(cm)	-	3×3(cm)	200×200(cm)
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0	2
主な出現種	ハマサンゴ属(塊状)	エダコモンサンゴ、 トゲエダコモンサンゴ 混生(樹枝状)	ハマサンゴ属(塊状)	イボハダハマサンゴ(樹枝状)	コノハコサンゴ(葉状)	アラリサンゴ(塊状)	スキノキミドリイシ(樹枝状)
		シロサンゴ(葉状)		コビミドリイシ(指状)		ハマサンゴ属(塊状)	
				クシハダミドリイシ(テーブル状)			
				ミドリイシ属(樹枝状)			
				ニホトゲキクメイシ(塊状)			

	ウフビシ 重要サンゴ群集等	大度 重要サンゴ群集等	白保アオサンゴ 重要サンゴ群集等	鳩間島南 重要サンゴ群集等	マルグー 重要サンゴ群集等
サンゴ類の総被度	75%	50%	55%	55%	25%
死サンゴ類の総被度	-	-	-	-	-
種類数	10	16	2	14	12
群体系数	16	32	2	20	23
ミドリイシ類の最大長径×短径	160×50(cm)	89×57(cm)	28×26(cm)	159×110(cm)	90×90(cm)
オニヒトデ個体数	1	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	4	0	0	1	1
主な出現種	ハナハチミドリイシ(テーブル状)	ユビミドリイシ(樹枝状)	アオサンゴ(棒状)	クシハダミドリイシ(テーブル状)	スキノキミドリイシ(樹枝状)
	クシハダミドリイシ(テーブル状)	クシハダミドリイシ(テーブル状)		ニオウミドリイシ(樹枝状)	ハナガサミドリイシ(コンボース状)
	タコビミドリイシ(コンボース状)	ミドリイシ属(樹枝状)		スキノキミドリイシ(樹枝状)	
	スキノキミドリイシ(樹枝状)				

	伊原間 対照地点	川平湾外 対照地点	渡嘉志久ビーチ108-1 対照地点	安波連ビーチ109-1 対照地点	南静園地先海域 対照地点	シギラ 対照地点
サンゴ類の総被度	1%未満	25%	35%	50%	65%	50%
死サンゴ類の総被度	-	-	-	-	-	-
種類数	2	11	10	13	16	13
群体系数	2	23	31	55	27	25
ミドリイシ類の最大長径×短径	-	70×26(cm)	200×137(cm)	32×13(cm)	47×45(cm)	17×10(cm)
オニヒトデ個体数	0	0	0	0	0	0
シロレイシダマシ類個体数	0	0	0	0	0	0
主な出現種	クサビライシ(非固着性)	トゲコモンサンゴ(樹枝状)	スキノキミドリイシ(樹枝状)	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)	トゲエダコモンサンゴ(樹枝状)	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)
	トゲキクメイシ(塊状)	スキノキミドリイシ(樹枝状)			エダコモンサンゴ(樹枝状)	

1) 代表評価地点(サンゴ場)等調査地点結果概要

代表評価地点(サンゴ場)等における永久コドラート内被度及び種数について図 4.3-5 に示した。

サンゴ被度は、1%未満から 85%まで確認された。被度が最も低かった地点は、大井川(今帰仁村)河口(018-1)、平良川河口(016-3)であり、被度が最も高かった地点は、与那良川河口(099-1)であった。

サンゴ種数は、1～30 種まで様々で、種数が最も低かった地点は、大井川(今帰仁村)河口(018-1)であり、種数が多かった地点は、儀間川河口(073-35)であった。

ただし、サンゴ被度と種数の間には関係性は薄く、漠那中港川河口(043-3)のように、被度が高い地点においても種数が少ない地点も確認された。

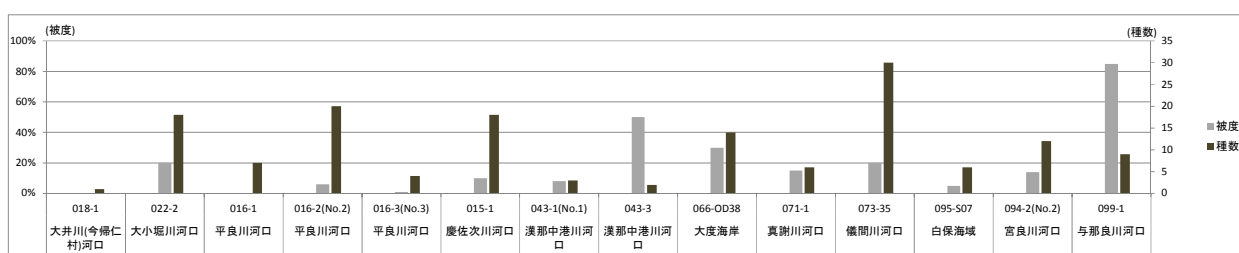


図 4.3-5 代表評価地点(サンゴ場)等永久コドラート内被度および種数

2) 重要サンゴ群集等地点結果概要

重要サンゴ群集等地点における永久コドラート内被度及び種数について図 4.3-6 に示した。

サンゴ被度は、25%から 75%まで確認された。被度が最も低かった地点はマルグーであり、最も高かった地点はウフビシである。

サンゴ種数は、2～16 種まで様々で、多数の種で構成されている地点が殆どであったが、白保アオサンゴにおいては、ほぼ 1 種の種で構成されていた。

平成 24 年度現在において、各重要サンゴ群集等地点に設定した永久コドラート内は、全地点において健全なサンゴの生息状況にある。

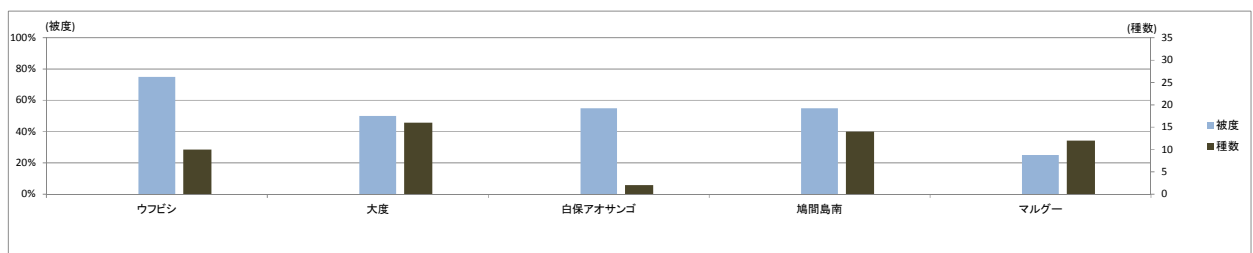


図 4.3-6 重要サンゴ群集等地点永久コドラート内被度および種数

3) 対照地点結果概要

対照地点における永久コドラート内被度及び種数について図 4.3-7 に示した。

サンゴ被度は、1%未満から 65%まで確認された。被度が最も低かったのは伊原間であり、最も高かった地点は南静園地先海域である。

サンゴ種数は、2～16 種まで確認されたが、伊原間を除いた地点では多数の種で構成されていた。

平成 24 年度現在において、対照地点に設定した永久コドラート内は、伊原間を除く全地点において健全なサンゴの生息状況にあり、対照地点として有効である。伊原間においては、近年オニヒトデの大発生により、壊滅的な影響を受けた地点であり、本来であれば対照地点として不適であるが、今後の回復傾向をモニタリングしていく意味で対照地点として設定した。

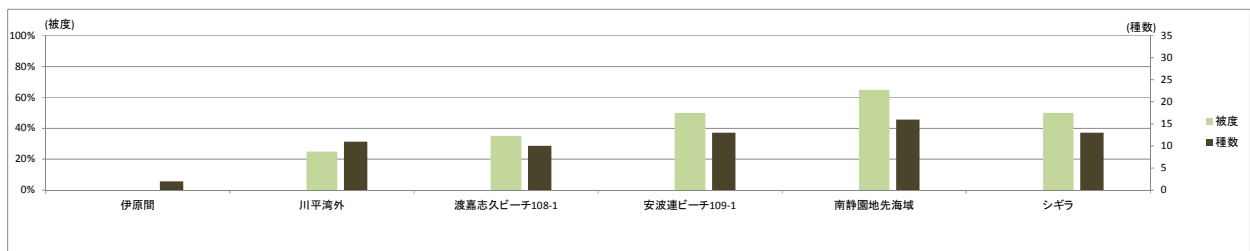


図 4.3-7 対照地点(サンゴ場)永久コドラート内被度および種数